

決意

1. この街で花を植え この街で歌をうたう
この街で恋をして この街で子供を産む
必ずここに帰る もう一度ここで暮らす
私たちのふるさとを とりもどすために
今しなければならぬこと
今前を向き 今立ち上がる
2. この街で働いて この街で子供を育て
この街で泣いて笑って この街で明日をつくる
必ずここに帰る もう一度ここで暮らす
俺たちのふるさとを とりもどすために
今しなければならぬこと
今声を上げ 今呼びかける

必ずここに帰る もう一度ここで暮らす
みんなの明日を とりもどすために
今しなければならぬこと
今手をつなぎ 今歩き出す
今手をつなぎ 今歩き出す

こんばんは

北海道合唱団の高島です。

「原発ゼロの社会へ」詩の応募です。

よろしくお願ひします。

この詩を書く際に私の心は二つのことにとらわれていた。

一つは福島の詩人和合亮一さんの「決意」という詩。いろいろ迷った末に同名のタイトルにした。和合さんの詩「決意」には勇気づけられる。「福島を守る、福島を取り戻す、福島は手の中に、福島を生きる」福島の決意が伝わってくる。絶対に福島と連帯しなければという意識に駆られる。

もう一つはこの夏福島で行われた全国高等学校総合文化祭での構成劇「ふくしまからのメッセージ」。野田首相も就任演説で引用した「福島に生まれて、福島で育って、福島で働いて、福島で結婚して、福島で子供を産んで、福島で子供を育てて、福島で孫を見て、福島でひ孫を見て、福島で最期を過ごす。」この台詞が頭から離れなかった。福島県人でもない私がこういう詩を書いているのだろうかと思ったが、福島の人たちに連帯したいという気持ちで書かずにいられなかった。

創作にあたって、福島のことを勉強しようと思って2冊の本を読んだ。一冊は「福島で生きる！原発31km地点・100日の記録」（山本一典著・洋泉社）、もう一冊は「原発闇社会・マスコミが伝えない現実」（連合通信社編集部著）。普段テレビや新聞が伝えていることがいかに正しくないことがよくわかる。真実をつかみ取ることがいかに難しいかがよくわかる。

今日の夕刊のトップは福島第一原発2号機の核分裂を伝えている……。北海道に住む私たちはこのニュースをどう受け取っているだろうか。福島の皆さんはどう受け取っているだろうか。私たちの受け取り方と福島の人たちの受け取り方に温度差があるにちがいない。この温度差を早く埋めなければ……。(2011.11.2)